

No.
160

令和5年2月号

鎌倉市長 松尾 崇の



月刊 温故知新 鎌倉

■ 松尾 崇(まつお たかし/49歳)の履歴 ■

昭和48年鎌倉市生まれ、西鎌倉幼稚園、西鎌倉小学校、鎌倉学園、日本大学、会社勤務を経て、鎌倉市議会議員・神奈川県議会議員を通算約8年間勤め、平成21年より鎌倉市長(現在4期目)。家族は、妻と3人の娘。趣味はジョギング、スノーボード、登山、お祭り。座右の銘は『温故知新』

市役所の移転について

12月26日の本会議におきまして、市役所の移転に必要な位置条例改正案が、賛成16 反対10で否決されました(可決には3分の2の賛成が必要です)。私の力不足ゆえの結果で、応援や、温かいご支援をいただきました皆様には、大変申し訳ございませんでした。

しかし、これで終わりではありません。

可決いただけるよう、何度でも挑戦してまいります。

今一度、なぜ市役所を移転しなければならないか？ということについての説明をします。

そもそもの発端は、東日本大震災でした。

『災害時、市民の生命財産を守るため、市役所は十分に機能しなければならない』

東日本大震災の被災地に伺い、多くの方々と、そして被災された自治体の市長と話をする機会をいただき、そのことをとても強く認識しました。

現在の市役所は大地震(震度6弱以上)があったら耐震が足りず業務を継続できません。さらに耐震化しようとする、ブレースをもっと増やさねばならず、ますます執務スペースが減ります。また地下に電源があるので少しでも津波が到達し浸水すると電源が使用不能になります。

それでは、建て替え新築をしようとする、高さ規制(10メートル)があったり、埋蔵文化財があったりするので、思うように建て替えできません。

市民対話を通じて、そのような状況を確認しながら、まず、市役所は移転して整備するということを決めました。(右上に続く→)

そしてさらに市民参加による検討を進め、移転先は「深沢」が適当である、という結論を出しました。その最大の目的は、『災害に強い鎌倉をつくる』ことです。

深沢の広い土地に、市役所、消防本部、スポーツグラウンド、総合体育館(保健センター機能含む)、公園を整備することで、災害時、迅速かつ効果的に対応できる体制が確立できること、そして自衛隊やその他の支援などの受け入れにも対応でき、災害時に市役所が防災拠点となることで、鎌倉市全体の防災力を向上できるからです。

自衛隊にご支援いただいた4年前の台風15号の被災時には、倒木、崖崩れ、長時間の停電などもあり、多くの連絡や問い合わせが市役所に殺到し大混乱しました。その際も、消防本部の指令センターが大船にあり、消防との情報を含めた連携は大きな課題だと認識しました。消防本部と市役所の災害対策本部が一緒にあることで、被害の迅速な情報共有ができ、即、効果的な支援が可能になります。

『鎌倉の中心は、鎌倉駅周辺の地域なのに、それを動かすことは絶対に認めない!』や『鎌倉時代前から役所機能があった場所なのだから今の場所から市役所を移転すべきではない』というご意見も多数いただけてきました。私も、鎌倉の中心は、鶴岡八幡宮を核とした鎌倉地域であると考えます。

ですので、市役所の現在地は、行政の手続き、市民サービスや相談窓口を残して近隣の方が不便にならないようにします。(裏面に続く→)



松尾たかし

フェイスブック、ツイッター、インスタグラム、ブログを更新中!



←松尾たかし HP

(討議資料)

(表面からの続き)

さらに図書館、ホール、集会室、市民活動センター機能などを導入して、芸術・文化・歴史などの発信拠点としたい。

『世界に誇れる鎌倉』を目指す私のビジョンの主役は市民です。現在の鎌倉市役所がある場所に週末も含めて、市民が集い、学び、交流し、憩える場となることで、市民にとって真の鎌倉の中心地となることを目指したいと考えています。

さらに公共施設再編の視点から財政負担をみると、現在の計画では約 183 億円なのに対して、市役所・中央図書館・鎌倉生涯学習センターをそれぞれ現在の場所で建て替えるとすると約 275 億円かかります。現在の移転計画は、財政的にも大きなメリットがある計画です。

多くの方から『伝わっていない』とご指摘いただきますことは、真摯に受けとめて反省いたします。まず、やるべきことは、繰り返し、繰り返し、事実に基づいた必要性を伝えていくことだと考えております。『業者とつるんでいるのではないか！？市長は利権に絡んでいるのではないか！？』という言葉もいただけてきました。まったくの事実無根です。

“動機善なりや、私心なかりしか”

昨年ご逝去された稲盛和夫さんのお言葉を、私も何度も何度も自問自答してきました。自分の名誉のためなのか？自分の出世のためなのか？

“いや、そうではない”

次世代に負担を先送りしないため、鎌倉が災害に強いまちとなり、市民の命、市民の暮らしを守るために、市役所を新しくするという不人気な政策でも、現在の、そして将来の市民のためにも絶対に必要だから、やり遂げなければなりません。

災害がいつ起きても不思議ではない中、発災時に司令塔となる本庁舎の建替えは、待ったなしの状況です。

再挑戦へのスタートとなります。引き続き、皆様におかれましては、ご理解ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

深沢は危険な場所！？

『そうはいつでも、深沢は危険な場所でしょ？』というご意見をいただくことがあります。

まず、津波浸水の想定はありません。

また、市役所建設予定地には、液状化の可能性もありません。

一方、洪水浸水については、想定最大規模降雨の場合には浸水想定がありますが、深沢地域整備事業による土地の整備(盛り土等)により、浸水想定の高さ以上となるよう計画しています。

そして、深沢という地名が水害を示唆している、という意見もありますが、それは誤解を含みます。「深沢」という地名は、『吾妻鏡』の養和元年(1181年)項に「不被入鎌倉中、直径深沢、可向腰越」とあり、鎌倉に入らず深沢へ戻り腰越に向かうように指示しているのが初見で、鎌倉と腰越の中間に位置しており、長谷の大仏建立の件にも「深沢の里で大仏堂事始め」とあり、現在の長谷大谷周辺を深沢郷とっていました。

歴史的には、現在のモノレール深沢駅前の区画整理事業用地だけを「深沢」と名付けているのではない、ということは知っておいていただければと思います。

第219回 大船クリーン大作戦

日時:3月4日(土)午前7時から8時

原則、毎月第1土曜日に開催。雨天中止。

集合場所：JR大船駅東口 階段下

持ち物：軍手やトング(なければお貸し致します)



◎お知らせ◎

◎この温故知新を捨てる際は『ミックスペーパー』へお願いします。

・『月刊・温故知新』(本紙)を10枚以上配布していただける方を募集しています。

⇒「やってあげても良いよ」という方、ぜひご連絡下さい！

・この『月刊・温故知新』を、お店の片隅やレジ横などに置かせて下さい！

◎定期購読をご希望の方は、無料で郵送しますのでご連絡ください。

◎発行：松尾たかしを応援する会 連絡先：鎌倉市台2-15-3 電話：43-6336

